

<http://www.japanplatform.org/we/index.html>

平成19年度グローバルに活躍できる「広島っ子」育成事業

第二回「国際交流体験プロジェクト」を実施

(江田島セミナー合宿3日目)



〔プログラム〕

伝統文化継承者等による講演・茶道体験(8月1日)

講師：湯川 昌氏(茶道上田宗箇流 (財)上田流和風堂 事務局長)
大下登紀子氏ほか(茶道上田宗箇流)

〔茶道上田宗箇流〕

上田宗箇流は400年の歴史を持つ武家の茶道です。初め、丹羽長秀の侍兒となり、後に豊臣秀吉の側近大名として拔擢され、茶の湯は千利休、古田織部に学んだ戦国の武将茶人上田宗箇を流祖とし、現在は上田宗阿宗匠が十六代目家元を継承している。

上田宗箇は桃山時代を代表する作庭家としても名があり、国の名勝「縮景園」(広島)、名古屋城庭園「二ノ丸庭園」など多くを作庭し、広くその名を知られている。

豊臣家が滅亡した大坂夏の陣後、元和五年(1619)芸州藩主となる浅野長晟とともに広島に入り、広島県西部一万七千石を知行。代々上田家はその領土を知し芸州藩家老職をつとめるとともに、宗箇の茶の湯を今日に伝えている。

桃山時代に確立した「侘び茶」を桃山以来、武家の茶として現代まで途絶えることなく伝え、武家茶の代表的な流儀と言われている。

〔内容およびスタッフ感想〕

お茶会はこちら側の代表の3人にお茶を振舞い、高校生及び留学生が茶道はどのようなものかを学ぶ。次に、全員がお茶菓子とお茶を頂き茶道を体験した。茶道の最中、高校生及び留学生は何をしているのかよく分からない顔をしていたが、厳かな雰囲気は感じていたらしく、とても静かにお茶会は進行した。茶道はお茶を出す側と出される側の気遣いがあるからこそ美しく完成されたものとなると感じた。高校生及び留学生も大変気を使っており、お茶を楽しみながらも苦労をしていた。しかし、今回の異文化交流は高校生と留学生にとってもよい刺激となった。

【広島経済大学4年：菊地 祐】

〔プログラム〕

広島国際平和会議2006/ビデオメッセージ上映(8月1日)

講師：野村正次郎氏、野村沙永氏

(広島国際平和会議2006実行委員会)

〔広島国際平和会議2006〕

2006年11月、ダライ・ラマ法王、ツツ大司教、ベティ・ウィリアムズ女史という3人のノーベル平和賞受賞者を一堂に広島へ招聘し「広島から平和のメッセージを発信する」という市民による市民のためのオープンサミットとして偉大なゲストとの語り合いの場が開催された。



〔内容およびスタッフ感想〕

野村先生の講演で、ダライ・ラマの貴重な話が聞けてよかった。私たちは広島で生まれ、広島で育ってきた。これだけで世界の中の唯一のブランドなのだと思った。過去にこの地でどんな悲惨なことが起こったのかよく理解し、核兵器を憎み、戦争を憎み、それを世界に伝えること、平和の尊さを伝えること、その強い説得力を持つのが、広島で生きる、若い私たちの使命なのだと感じた。そしてダライ・ラマの言うように、若い私たちが、世界を見に行き、さまざまな世界の現状を把握することも大切だと思う。これらのことを考慮し、これからの学生生活をもっと有意義なものにしていけるように努力したい。

【広島修道大学1年：富樫裕子】